

保険証一枚ではり・きゅう・マッサージを受けたい

医療を考える会 会報

発行元:NPO 法人 医療を考える会

住所 渋谷区代々木 2-39-7 メゾン代々木 201 号

TEL 03-3375-6151 / FAX 03-3299-5275

メール iryokangaeru@waltz.ocn.ne.jp

ホームページ <http://npo-iryoo.org/>



社教館祭りで会いましょう

寒に入り厳しい寒さもときに顔を見せますが、暖冬を感じるこのごろです。皆様お変わりなくお過ごしのことと思います。

さて、本年も NPO 法人医療を考える会が登録団体となっております、渋谷区千駄ヶ谷社会教育会館の第 28 回社教館祭りが、2 月 12 日に開催されます。千駄ヶ谷社教館まつりは社会教育会館を利用する団体が、団体の活動をアピールする場です。

当会もあん摩・マッサージ・指圧師による治療体験コーナー、はり・きゅう治療や健康保険による治療相談などの相談コーナーなどを設けて参加いたします。

治療を体験してもらい、署名への協力をお願いする取り組みへ、会員みなさんの参加をお願い致します。広く国民の健康維持に鍼灸・マッサージを活用できることや健康保険制度の改善の運動への理解を得るための大切な機会です。

会員の治療体験や会員交流の機会としたいとおもいますのでみなさん是非ご参加下さい。

(会場案内) JR 千駄ヶ谷駅下車徒歩 5 分)

第 28 回社教館祭

2017 年 2 月 12 日 (日)

渋谷区社会教育会館

治療体験コーナーで治療をする治療資格のある会員の参加をお願いいたします。参加のご連絡を事務局山口までお願いいたします。

開催時間は 10 時より 16 時です。前半 10 時から 13 時、後半 13 時から 16 時として、前半のみあるいは後半のみ参加できる方もご協力ください。事務局 山口充子



年頭のご挨拶

2017年1月 元旦

NPO 医療を考える会 理事長 山西 俊夫

明けましておめでとうございます。

会員の皆様におかれましてはお元気で新年をお迎えになられたことと思います。日頃のNPO 医療を考える会へのご理解とご協力に心からお礼を申し上げます。

2017年の十二支は「酉」で我が家は皆、年男・年女にあたりますので一層張り切らざるをえません。干支は「丁酉」でこの年の総体的運気は、常に自ら工夫、努力をする人だけに運勢が開くというそうです。また「トリを務める」の意味もあり、ものごとに決着をつける必要のある年ということになるそうです。また2016年と違って国内問題に焦点があてられる年になるそうです。

これをヒントにして今年の会の活動を進めたいと思います。

昨年は、私が聞き及ぶ限り私たちの運動を進める上でかけがえのない二人の大先輩を喪いました。

一人は、3月20日にNPO「医療を考える会」の顧問で初代理事長の相葉計佳先生が83歳で逝去されました。先生は一貫して東洋医療のすごさ、西洋医療との統合治療を説かれ、長期にわたり我々の運動の精神的支柱でした。

我々の運動が医療行政の厚い壁に苦戦している事実に対して、相葉先生は「NPO「医療を考える会」の運動を絶対にあきらめるな！継続すること！」との叱咤激励の遺言を残して逝かれたのです。

二人目は12月6日に急死された安保徹新潟大学名誉教授です。安保徹先生は、手術、抗がん剤治療、放射線治療はいずれも、基本的には免疫を抑制するような治療だと主張され、薬漬け医療に批判的で、政府や医薬会社からは目の敵にされていたといひます。新聞も12月8日の新潟日報の記事を除いて一切報じていないのは、はてな？です。

そこで、2015年3月に記者発表された地球環境評論家船瀬俊介氏の「新医学宣言」からアメリカの代替療法のたどった歴史を参考までに以下に抜粋します。

1960～70年代： 石油メジャーと国家が手を組み製薬医療の利権と結び付き、代替療法を禁止し医療家を逮捕した為、多くの医療家がメキシコに逃亡した。1970年代：ナチュラル・キラー細胞（ガンを食べる免疫細胞）が発見され、代替療法が見直される。現在：アメリカで過去への反省から、がん治療は代替治療6割、抗がん剤治療4割に逆転した。

アメリカに起きたことに大きな意味があると船瀬氏は力説します。

代替医療である東洋医療に確信を持ち、幅広い視野から健康保険を勝ち取る運動を今年も展開しましょう！





病気の予防に、東洋医療を

理事 高橋養蔵

昨年、暮れに見えた患者さん（30年通院 85才女性）「隣の奥さん、膝が痛くて歩けなくなりました。自分は、長い間ここにきていたので医者に褒められた。血液検査でもなにも引っかからない背筋も伸びてしっかりしていると」。

本人は長い間夫の看病で、肩こり、腰痛、膝関節痛に苦しんでいた人です。
だれもが東洋医療を健康保険で、気軽に利用できるようにしましょう。



2017 新年に向けて

理事（鍼灸マッサージ治療院ひなた） 武井百代

昨年度は私的にも 仕事や研修の機会など対外的にも世界を視野に入れた社会的な面においても様々な出来事が起こり、

大きな喜びと感謝を感じずることも、自己への反省を思うことも、自分のあるいは何者の力も及ばない出来事に消沈したことも多々ありました。

様々な事の中で、学ぶことが出来たのは、身近あるいは深遠なく関わりのあった方にお話、助言、ヒント、見守りなど色々な形で助けていただきました。自分自身が一治療者として責任をもってしっかりと構えるのは当然のこと。その背景に家族や患者さん、関わりある皆様社会の一員として支えられていることを深く実感できた昨年でした。

社会的にもまだ落ち着いたかなそんな新年ですが、身近なことを見つめ直し感謝しながら大切に拵げて参りたいと思います。（マザーテレサも世界平和に一番良いのは身近な家族を愛してくださいとおっしゃったとか）

医療、介護の世界は多職種が参入し、その連携が必要となっております。他資格の方を理解し互いのよい面を活用しながら当事者の方と家族の方を支えられたら地域ひとつひとつにいいものが確立してゆけるでしょう。確かな治療技術と平行して、地域を大切にしたい連携がとれるようになることこれの一つ目標にしたいと思います。

最後に 慢性的基礎疾患を抱えながら家族介護をされていた患者さんが あるとき経過が思わしくない状態が続き受診もされていましたがおかしいと思うくらい不調なとき、訪問看護師さんも指摘し大学病院の救急外来を受診したら珍しいタイプの難病であったことがありました。

患者さんはともすると受け身な立場になりがちです。治療師として万能でなくとも注意しておかしいと思うことはしっかりと指摘するということの大切さを思いました。

目標と反省を持って新年に臨みます。皆様本年度も宜しく願いいたします。



普通の道理が通りますように 2017年1月4日 副理事長 田中 榮子

みなさま明けましておめでとうございます。

「新しい年は明るいいい年になりますように」と誰しも願うことですね。私たちが長年取り組んできたテーマ「病気を早く治したい。より健康になりたい。穏やかに暮らしたい。そのために、鍼灸・マッサージ、東洋医療を健康保険で使いやすくしてほしい。」この要望は、上がりにくい坂道にかかっているようですね。

私たちを取り巻く社会は営利第一主義が高じて、一面、面白い現象が生じていますが、労働者は非正規の労働者が4割を占め、経済的格差が拡大しています。社会保障では自己責任、自助、自立が強調され、弱い立場の人たちは生活は困窮し、病気の治療もままならず、また、介護難民と言われている人も増えています。

金沢大学名誉教授の井上英夫氏が会長をなさっている「生存権裁判支援連絡会」に私も入っていますが、昨年11月、最高裁判所は「兵庫県生存権裁判で不当な判決を出しました。これで11年間900人余りの原告が訴えてきた「生存権裁判」はすべて敗訴となりました。

高齢で生活保護を受けざるを得なくなった方々の生活はどうなるでしょう。東北の病気を抱えた男性は「厳寒の中で暖をとる石油も必要な量が買えないので冬を乗り切るのが大変です」と訴えていました。

実質的に「無理が通れば道理ひっこむ」の世の中になっているのでしょうか。私たち主権者は「社会事象の真実は何か」をいつも客観的に把握し、一人ひとりが尊重される社会をどうつくっていくのか、考え、力を出しあえば、きっと明るい道をつくっていくことができると思います。

鍼灸、マッサージ治療の制度を当たり前前に改善すること、今は、この課題が上り坂でも、少しもたついているように思っても、必要な発言と行動をしていけば、日本の民主主義を内容あるものにしていくはたらくですから、きっと朗報が得られる時が来ることでしょう。

本年も皆様と力を合わせて「道理」が通るように楽しく歩んでいきたいと思えます。



自分の意志で治療を選べる健康保険に

副理事長、事務局 山口 充子

会員のみなさま本年もよろしくお願ひいたします。

私たち国民の権利が本当に尊重される健康保険制度へ、漢方も鍼灸治療もあん摩マッサージ指圧治療も患者が自分の意志で受診出来る制度へ、ねばり強く改善の声を広げていきましょう。衆議院選挙を予想する報道も流されており、議員への働きかけも大切な年だと思えます。

「はり・きゅう治療、あん摩・マッサージ・指圧治療を健康保険証を示して受診できるようにして下さい」の署名をひろげるため引き続きご協力をお願いします。

また、2月12日には、渋谷区千駄ヶ谷社会教育会館にて、毎年行われている会社教館祭りが開催され、NPO 医療を考える会は、あん摩マッサージ指圧治療、はり・灸治療の普及を目的にボランティア治療と署名に取り組みます。お知らせをご覧になり、会員のみなさまのご参加をお願いいたします。治療資格のある会員のみなさんは、ボランティア治療にご協力をお願い致します。

チャレンジ精神を出してがんばります

理事 木幡 久美子



今年も、83歳になる友人の先導で、雑司ヶ谷の七福神めぐりに行ってきました。一つだけ、ご朱印をもらえない所があったので、先日一人で護国寺まで歩いて行ってきました。3時間、1万3千歩余歩きました。昨年具合が悪くて自信をなくしたのですが、これで少しだけ元気が出てきました。

今年74才になり白内障の手術の予約も済ませましたが、3年後の東京オリンピックをめざしてチャレンジ精神（ボケ防止に役立つ）を出して、どこまでできるかわかりませんが、今年も頑張ってみようと思います。NPO活動がしりすぼみにならない為にも、若い人が入ってきて欲しい。

退任にあたって

理事 平田 啓

2年半前の開腹手術後、体力・気力が低下、まともな理事としての役割が果たせず、申し訳ありませんでした。先の総会までで、わがまを許していただき、退任させていただきました。長い間、理事の末席においていただき、ありがとうございました。

「鍼灸をはじめ、東洋医学にまっとうな位置を」という思いで、「考える会」の発展をという運動に、今後も一会員として参加し続けて参りますので、よろしく願いいたします。

2年半前も、心筋梗塞のカテーテル治療をと、診てもらっていた医師に、偶然腹部の触診を受け、腹部動脈瘤がわかり、破裂前に切除し、生き続けることができました。

動脈瘤は自覚症状もなく、ほかの症状も出にくいため、分からなければ、破裂し、破裂となれば9割までは助からないといわれています。

私の場合、心臓の専門医が、たまたま腹部を診たための命拾いでした。部分しか診ない傾向が強い西洋医学の問題点を、またしても思い知らされ、身体全体を診て治療する東洋医学の大切さをかみしめたところです。

そのためにも、いま会がすすめている鍼灸への保険適用、鍼灸を医療として認めさせる運動をなんとしても成功させてほしいと思います。

真の保険適用が実現すれば、受診者は何十倍、何百倍にもなり、鍼灸師不足に陥ること間違いなしです。そんなことをめざして、努力し続けたいと思います。

投稿のお願い NPO 医療を考える会の会報は、年間3回の発行が計画されており、会からのお知らせや活動の報告とともに、会員みなさまのいろいろな問題についてご意見やご感想を掲載していきたいと考えています。

医療や介護の問題はもちろん、食べ物や暮らし方など生活全般にわたるいろいろな問題でご意見やご感想をお寄せ下さい。メールによる投稿、ファクスや郵送による投稿でも結構です。NPO 医療を考える会事務局あてに送付をお願いいたします。

メール iryu-kangaeru@waltz.ocn.ne.jp FAX 03-3299-5275

郵送 渋谷区代々木2-39-7メゾン代々木 201